

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(1階)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;ji_gyosyoCd=2294200858-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;ji_gyosyoCd=2294200858-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年11月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街にあり、桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く布団は毎週天日干しをしています。冬も暖かく日光浴しております。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあいも行事に取り入れています。新型コロナウイルスの予防からホーム内のできる楽しい事を追及しています。季節ごとの壁画作りを入居者様と一緒に楽しく活気のある生活ができる様に取り組んでいます。食事にも力を入れホームの畑で取れた野菜をメニューに取り入れ、一汁三菜の献立で毎月うなぎ丼、お刺身、天ぷらがありとても好評です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎日の朝礼で職員が発表する「good&new」が始動スイッチの切り替えとなり、自らのベクトルが「生き生き生きる」へと向いた職員の支援は、産休に入る職員のお腹に代わるがわる手を当て「元気に産まれますように」の願いを込める慈しみや、地域へ配付する朝顔の苗を世話し「今年も無事にお嫁にいくといいね」と見守る真剣な眼差しなど、利用者一人ひとりの豊かな表情となって日常のシーンにあふれ、笑顔へと花開いています。働きやすく魅力ある職場作りに積極的に取り組んだその姿勢は、今年度の静岡県健康福祉大会静岡県優良介護事業所表彰の職場環境改善部門受賞に輝き、高く評価されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」の発表も増え、朝から楽しい気持ちで始める事が定着してきている。	毎朝の「good&new」発表が仕事の時間への「やる気スイッチ」の切り替えとなっています。自らのベクトルが「生き生き生きる」へと向かった職員の支援は、日常のシーンにあふれる利用者の穏やかな笑顔となって花開き、大家族のようないたわりで包まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域の保育園やボランティアと行事を通して入居者様との交流をしていたが新型コロナウイルスの予防から家族以外の来客はご遠慮いただいている。一昨年、今年と朝顔の苗を入居者様と作り、近所の方に持って行って頂き、お礼に花の種を頂く。	職員の子どもが夏休みに持ち帰った鉢に端を発した朝顔の苗の配付も、2年目となりました。「今年も無事にお嫁にいくといいね」の願いをかけ、毎日利用者が水をやって育んだ苗が無事に嫁ぎ、たみの里与一で芽生えた地域交流の輪が確実に広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が運営推進会議に参加してください(コロナ禍以降は議事録送付)、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが新型コロナウイルスの影響から中止し、報告する予定だった内容を議事録として作成、ご家族、地域包括、介護保険課、自治会長へ郵送している。意見交流を行い、現場に活かしている。	入居者状況、行事、身体拘束廃止委員会議事録等、運営に関わる2ヶ月間の報告を記載した運営推進会議議事録は、意見聴取用紙を添えて地域代表、家族全員、地域包括支援センター、市介護保険課へ郵送し、透明性のある事業運営とサービスの質の向上に活かしています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。	運営推進会議議事録は都度窓口を訪問して届けるとともに自らの運営状況を伝え、積極的に良好な協力関係を築けるよう努めています。先の台風15号被害による同一法人事業所断水の折には、管理者からの問い合わせにも快く対応してもらえる心強さがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたい、現在までに身体拘束をした事例がない。5、11月に身体拘束をしないケアを継続するよう職員に内部研修を行っている。個人ワークシートも活用し振り返りを行っている。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせて実施している。	「なぜ身体拘束ゼロを目指すのか」その目標と具体的内容を「身体拘束「0」へ 私の3ヶ月集中シート」に記載し、期間限定で自身と事業所の課題を共有して目標達成に向け実践するとともにその成果を確認し合い、利用者本位のよりよい生活環境作りにつなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は地域包括支援センターや家庭裁判所に相談し活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約前に入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がなく契約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策ガイドラインを作成し面会も状況によって対応。任意でご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。毎月入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。	新型コロナウイルス感染者数の推移により面会方法を都度定め、現在は感染予防対策を講じて予約制、玄関にて20分としています。また、SNSを通じたやり取りは半数近くなり、ブログやお便りなど様々な手段で様子を伝え、こまめな電話連絡で意見や要望を聴き取っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時など常時職員からの提案、改善を聞き、話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案。今年度から職場環境改善委員会を設置し、他ホームとの意見交換し現場で活かしている。年に1回職員と面談を行っている。	昨年度4月より職員間の交換日記を始め、不慣れや嬉しかったことなどその時の気持ちを素直に綴り合い、職員一人ひとりが互いを受け入れ、認め合う集団へ成長したことが評価され、令和4年度静岡県健康福祉大会職場環境改善部門において静岡県優良介護事業所受賞に至っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、面談等を行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設け今年度からはリーダーが中心に行っている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座を利用している。3年度より新卒採用3年以内以外の職員も本部研修に参加できるようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響前は運勢推進会議に近隣のGHの事業者とお互いに参加し交流を持っていた。外部研修(ZOOM)に参加し他施設との交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。担当の居宅、施設の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供していただき初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの予防から静岡県の指針に合わせ家族以外の来客はご遠慮いただいている。以前は入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようにお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。	面会制限を緩和した時期には友人、知人が複数訪れ、久しぶりの再会を喜び合う姿もありました。感染予防対策を講じながら買い物支援をおこなったり、暑中見舞いや年賀状制作で家族に息災を伝え、コロナ禍にあっても馴染みの暮らしを継続する工夫があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナウイルスの予防からイベント行事やレクリエーション等は各ユニット行っている。毎日の生活では、入居者様同士が楽しく関わりを持てるように役割分担をし、その中で入居者様同士の助け合いも見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっていたが、コロナ禍からはボランティアの参加は自粛している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から情報を集め、好き嫌いこだわること、生活歴を把握しケアに生かしている。年齢をとりだんだん気持ちを伝えづらくなるが今まで共に過ごしてきた情報やご家族と相談し喜んでいただけるケアに努めている。(野球、風船、青い野菜、加工品、宝塚、園芸など)	レクリエーション中にあふれ出す言葉や日常会話で垣間見える心情から思いを把握して利用者担当が気づきをまとめ、カンファレンスに臨んでいます。「一人で～したい」「～は恥ずかしい」「～とよく話される」など丁寧な観察がおこなわれていることが介護計画から読み取れます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースや好きな事を崩さないように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。	介護計画の担当者欄は主治医や看護師、薬剤師等多職種に加え、家族による協力も位置づけたチームケアの実践を示し、こまやかな意向把握から「自分でやりたい」気持ちに寄り添い、「できることを継続」するためどのように力添えしていくか詳細に記載されています。	援助内容に沿ったケアが展開されていることを示す担保としての記録を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送り、ノートにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防から自粛しているがドライブは時々行っている。コロナ影響前は近隣のボランティア・保育園に行事に一緒に参加して頂いた。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に連絡、相談、連携を図り、指示や結果をご家族様へ報告している。総合病院の内臓疾患の検査時にはご家族も一緒に受診に行き今後の方針を話し合っている。	18名全員が協力医に変更し、訪問診療の際は管理者が立ち会っています。結果は「往診記録」「支援経過」に記録し、必要事項は申し送りノートに記載して情報共有しています。また、歯科衛生士による月2回の口腔ケアや往診による歯科治療もおこなわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で入院中は面会禁止の為、病院関係者より情報提供を必要に応じてして頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂き退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。退去される方の殆どが看取り介護を行っている。	契約時に「急変時及び看取りの意向確認」への記入をお願いし、介護保険更新時にも再確認しています。ほとんどの人が最期まで「たみの里で」と希望するなか、今期も一名をお見送りし、その後の定例会で「生き生きと生きていただろうか」と振り返り、明日の介護へと繋いでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、看護師やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。夜間想定や水害の垂直避難も行っている。消防への連絡を全職員が出来るように訓練している。	先の台風15号被害において初めての夜間停電を経験し、管理者はじめ近隣職員が応援に駆け付け、ガスコンロやアルファ米等の備蓄を活用して大きな混乱もなく業務遂行できています。市内での深刻な断水被害を教訓に、飲用、生活用水ともに備えは十分か再検討しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者、職員同士で指導しあっている。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学びおもてなしの気持ちでお客様第一主義を常に意識している。	「身体拘束「0」への取組みシート」により日常のケアを振り返り、つい使ってしまうがちな「行動を制限する言葉」を職員間で再認識するとともに互いに声をかけて指摘しあえる関係が構築され、職員の意識も高まり、危険がない限り利用者の行動を否定する声かけは減少しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。新型コロナウイルスの影響前は個々の日常品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。ご家族が購入される際にもアドバイスしている。入居者様によっては個別のシャンプーを使用したり、朝は寝ぐせ直しを使用し整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆拭きと片付けもお手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り味も見た目も一定レベルを保つよう記録している。献立に毎月うなぎ井お刺身天ぷら手作りおやつが必ずあり好評。	職員が握る「寿司たみ」はいつも以上に食が進む盛況ぶりで、手打ちうどんや茶道部経験のある職員による点前をはじめ、七夕クッキー、天の川ようかんなどネーミングも豊かな七夕おやつパイキング、父の日にはノンアルコールビールで乾杯、と枚挙にいとまがない食彩の豊かさです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせ数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。	排泄の意思表示が難しくなってきた場合は、把握した排泄リズムを基に時間で誘導するとともに、「そろそろする」「立ち上がる」「落ち着きなく歩く」など、その人が発している排泄のサインを見逃さないよう日頃からよく観察して見極め、タイミングよくトイレに誘っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し食後のトイレ誘導など自然排便を促している。体操や運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせてかかりつけ医からの便秘薬で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意したり、「いい湯だな」等の曲を流しながら入浴している。一番風呂に入りたい方への希望も叶えゆったり入浴して頂いている。	3日に一度を目安とし、毎日入りたい要望にも応えられるよう体制を整えています。重度化によりシャワーキャリアでの介助も増えていますが、冬期は足湯を併用するなど寒さ対策に配慮しています。湯船にゆっくり浸かる間は談笑が響き「いい湯だった～」の声が聞かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団は毎週天日干ししている。生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬剤師が管理し薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートへ記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーション、作品展など楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	駐車場で日光浴をよく行っている。新型コロナウイルスの影響前は散歩、月1度の外出支援や企画外出をして楽しみを創っていた。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。コロナ感染状況を把握し入居者様の希望のパンを買いに行くなどした。	住宅街に位置しているため、新型コロナウイルス感染症の蔓延以降日常的な散歩は控えていますが、広い駐車場の一面で歌を歌ったりボール投げなど活動的に日光浴、外気浴を取り入れています。感染者数の推移を見て護国神社へ初詣に出かけたり、「降りないドライブ」も楽しんでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしていないが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。新型コロナウイルスの影響から管理者がご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め綺麗な生活環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて季節の作品作りをし各居室やホールへ飾っている。	感染予防対策の消毒とこまめな換気を徹底した空間に、七夕飾りやハロウィン、干支の制作等、利用者との協力で四季折々の作品を掲示しています。事業所の庭の畑やプランターでは季節の野菜や花が育てられ、開花や収穫を心待ちにして手入れする姿があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しめたり、テレビを見たり、窓際やデッキに椅子を置いて日光浴を楽しめたりと思思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に動線を考慮して設置。エアコンの風が直接当たらないようにベットの位置や向きも考慮している。好きな写真やご自分の作品等も飾りっている。	自宅から持ち込まれた好みの物や使い慣れた物は、本人や家族と相談しながらレイアウトを考え、転倒防止のため家具の突っ張りを設置して安全面にも気を配っています。取扱いに不安や混乱が生じる物品は一旦整理して様子を見たり、持ち帰ってもらったりしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(2階)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年11月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街にあり、桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く布団は毎週天日干しをしています。冬も暖かく日光浴しております。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあいも行事に取り入れています。新型コロナウイルスの予防からホーム内のできる楽しい事を追及しています。季節ごとの壁画作りを入居者様と一緒に楽しく活気のある生活ができる様に取り組んでいます。食事にも力を入れホームの畑で取れた野菜をメニューに取り入れ、一汁三菜の献立で毎月うなぎ丼、お刺身、天ぷらがありとても好評です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎日の朝礼で職員が発表する「good&new」が始動スイッチの切り替えとなり、自らのベクトルが「生き生き生きる」へと向いた職員の支援は、産休に入る職員のお腹に代わるがわる手を当て「元気に産まれますように」の願いを込める慈しみや、地域へ配付する朝顔の苗を世話し「今年も無事にお嫁にいくといいね」と見守る真剣な眼差しなど、利用者一人ひとりの豊かな表情となって日常のシーンにあふれ、笑顔へと花開いています。動きやすく魅力ある職場作りに積極的に取り組んだその姿勢は、今年度の静岡県健康福祉大会静岡県優良介護事業所表彰の職場環境改善部門受賞に輝き、高く評価されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」の発表も増え、朝から楽しい気持ちで始める事が定着してきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域の保育園やボランティアと行事を通して入居者様との交流をしていたが新型コロナウイルスの予防から家族以外の来客はご遠慮いただいている。一昨年、今年と朝顔の苗を入居者様と作り、近所の方に持って行って頂き、お礼に花の種を頂く。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が運営推進会議に参加していただき(コロナ禍以降は議事録送付)、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが新型コロナウイルスの影響から中止し、報告する予定だった内容を議事録として作成、ご家族、地域包括、介護保険課、自治会長へ郵送している。意見交流を行い、現場に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたい、現在までに身体拘束をした事例がない。5、11月に身体拘束をしないケアを継続するよう職員に内部研修を行っている。個人ワークシートも活用し振り返りを行っている。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせて実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は地域包括支援センターや家庭裁判所に相談し活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約前に入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がなく契約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策ガイドラインを作成し面会も状況によって対応。任意でご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。毎月入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時など常時職員からの提案、改善を聞き、話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案。今年度から職場環境改善委員会を設置し、他ホームとの意見交換し現場で活かしている。年に1回職員と面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、面談等を行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設け今年度からはリーダーが中心に行っている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉社会の出張講座を利用している。3年度より新卒採用3年以内以外の職員も本部研修に参加できるようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響前は運勢推進会議に近隣のGHの事業者とお互いに参加し交流を持っていた。外部研修(ZOOM)に参加し他施設との交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。担当の居宅、施設の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供していただき初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの予防から静岡県の指針に合わせ家族以外の来客はご遠慮いただいている。以前は入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようにお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナウイルスの予防からイベント行事やレクリエーション等は各ユニット行っている。毎日の生活では、入居者様同士が楽しく関わりを持てるように役割分担をし、その中で入居者様同士の助け合いも見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっていたが、コロナ禍からはボランティアの参加は自粛している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から情報を集め、好き嫌いこだわる事、生活歴を把握しケアに生かしている。年齢をとりだんだん気持ちを伝えづらくなるが今まで共に過ごしてきた情報やご家族と相談し喜んでいただけるケアに努めている。(野球、風船、青い野菜、加工品、宝塚、園芸など)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースや好きな事を崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送り、ノートにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防から自粛しているがドライブは時々行っている。コロナ影響前は近隣のボランティア・保育園に行事に一緒に参加して頂いた。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に連絡、相談、連携を図り、指示や結果をご家族様へ報告している。総合病院の内臓疾患の検査時にはご家族も一緒に受診に行き今後の方針を話し合っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で入院中は面会禁止の為、病院関係者より情報提供を必要に応じてして頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂き退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。退去される方の殆どが看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、看護師やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。夜間想定や水害の垂直避難も行っている。消防への連絡を全職員が出来るように訓練している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者、職員同士で指導しあっている。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学びおもてなしの気持ちでお客様第一主義を常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。新型コロナウイルスの影響前は個々の日常品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。ご家族が購入される際にもアドバイスしている。入居者様によっては個別のシャンプーを使用したり、朝は寝ぐせ直しを使用し整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆拭きと片付けもお手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り味も見た目も一定レベルを保つよう記録している。献立に毎月うなぎ井お刺身天ぷら手作りおやつが必ずあり好評。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせ数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し食後のトイレ誘導など自然排便を促している。体操や運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせてかかりつけ医からの便秘薬で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2, 3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意したり、「いい湯だな」等の曲を流しながら入浴している。一番風呂に入りたい方への希望も叶えゆったり入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団は毎週天日干ししている。生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬剤師が管理し薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートへ記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーション、作品展など楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駐車場で日光浴をよく行っている。新型コロナウイルスの影響前は散歩、月1度の外出支援や企画外出をして楽しみを創っていた。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。コロナ感染状況を把握し入居者様の希望のパンを買いに行くなどした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしていないが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。新型コロナウイルスの影響から管理者がご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め綺麗な生活環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて季節の作品作りをし各居室やホールへ飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しめたり、テレビを見たり、窓際やデッキに椅子を置いて日光浴を楽しめたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に動線を考慮して設置。エアコンの風が直接当たらないようにベットの位置や向きも考慮している。好きな写真やご自分の作品等も飾りっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		